

SUMP (持続可能な都市モビリティ計画 : Sustainable Urban Mobility Plans) 等欧州での様々な工夫が身近にわかる新書が10月新発売。公共交通とまちづくりには必読書。

SUMP (持続可能な都市モビリティ計画 Sustainable Urban Mobility Plans) とは
定義：生活の質 (QoL) を向上させるために、都市とその周辺に住む人々や経済社会活動におけるモビリティニーズを満たすように設計された戦略的な計画 です。

- 2013年に欧州委員会 (EU) で提示、ガイドラインも公表 (第2版*を2019年に公表)
- * 第2版SUMPは独占翻訳権を持つ地域公共交通総合研究所メンバーが翻訳・監訳しの地公研HPからDL可能
- ビジョンを起点に、バックキャストアプローチによるモビリティ計画を行うことが特徴

【著者からのことば】

宇都宮 浄人・柴山 多佳児

『持続可能な交通まちづくり—欧州の実践に学ぶ』 (ちくま新書)

SUMPの背景、ポイント、学ぶべき点などを、持続可能性の考え方からわかりやすく解説。日本の状況も踏まえ、地方都市圏で豊かな生活を送れるようにするための、これからの日本の都市交通計画のあり方を提言。

「人間の生活には、移動が不可欠である。持続可能性が求められる今日、交通まちづくりによって、公共交通はもちろん、自転車、徒歩にも優しい街をつくり、自家用車以外の移動の選択肢を増やすことが、誰もが分け隔てなく社会参加できる、豊かでQOLの高い社会の実現につながるに違いない。」

関西大学 宇都宮 浄人
ウィーン工科大学 柴山 多佳児

【小嶋理事長 書評】

「持続可能な交通まちづくり—欧州の実践に学ぶ : 宇都宮 浄人/柴山 多佳児著」は日本の地域公共交通を考えるのには必読の一冊だ！

(一財) 地域公共交通総合研究所 理事長 小嶋 光信
日本の地域公共交通は高度成長時代の民設民営が当たり前の意識が官民ともに抜けきらず、何十年も赤字経営を補助金で支えて延命を図ってきたが、コロナ禍によりいよいよ事業継続が危ぶまれる事態に陥った。既に日本の地域公共交通のビジネスモデルの多くは破綻している現状から、新しい公設民営や公設民託などのビジネスモデルに切り替えなければならない時点に来ていると言える。

本書は新しいビジネスモデルに切り替えるにあたって、日本の「移動をどうするか」、「サステナブルとは交通事業会社の継続」という議論を超え、「持続可能な望ましい社会」のQOL (クオリティー・オブ・ライフ) に向けていかなるモビリティが重要かから説き起こしている。両氏が日本に紹介し、(一財) 地域公共交通総合研究所が発刊したSUMP(持続可能な都市モビリティ計画)に関心のある人はもちろん、次世代の夢のあるまちづくりを志す皆さんにとって、「持続可能な交通まちづくり—欧州の実践に学ぶ」は是非必読の一冊だ。



持続可能な都市モビリティ計画の策定と実施のためのガイドライン



(一財) 地域公共交通総合研究所 発刊

購入先 (例: アマゾン)

[持続可能な交通まちづくり—欧州の実践に学ぶ\(ちくま新書1824\)](#)

持続可能な都市モビリティ計画の策定と実施のためガイドライン 第2版 大型本 - 2022/10/25

宇都宮 浄人 (監修, 翻訳), 柴山 多佳児 (監修, 翻訳)